

令和 2 年度決算に係る

決算審査資料

令和 3 年 7 月

教育委員会高等学校課

## 目 次

6	決算資料(総括表) .....	1頁
7	事業別実施状況調べ .....	2頁
8	予備費の充用調べ .....	6頁
9	繰越関係調べ .....	6頁
	(1) 継続費逐次繰越調べ	
	(2) 繰越明許費調べ	
	(3) 事故繰越調べ	

6 決算資料

一般会計(歳入)

区分	科目	予算			現額		調定額 A	収入済額 B	不納欠損額 C	収入未済額 A-B-C	備考
		当初予算額	補正予算額	繰越費及び繰越事業費 繰越財源充当額	計	繰越費及び繰越事業費 繰越財源充当額					
歳	教育使用料	1,318,165,000	△ 12,379,000	0	1,305,786,000	1,282,374,720	1,282,070,720	0	304,000	授業料・過年度税外未収金(鳥取湖陵)	
	教育手数料	34,218,000	△ 3,126,000	0	31,092,000	29,583,360	29,583,360	0	0		
	教育費国庫負担金	1,136,030,000	0	0	1,136,030,000	1,091,251,752	1,091,251,752	0	0		
	教育費国庫補助金	21,477,000	48,215,000	0	69,692,000	52,042,300	52,042,300	0	0		
	財産売却収入	0	0	0	0	21,450	21,450	0	0		
	教育費寄付金	873,000	0	0	873,000	560,000	560,000	0	0		
	雑入	692,000	0	0	692,000	169,705	169,705	0	0		
	合計	2,511,455,000	32,710,000	0	2,544,165,000	2,456,003,287	2,455,699,287	0	304,000		

一般会計(歳出)

区分	科目	予算			現額		支出済額 (決算額) B	支出済額の内訳		翌年度 繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	備考
		当初予算額	補正予算額	繰越費及び繰越事業費 繰越額	繰越費及び繰越事業費 支出用増減	計		A	本庁			
	教育連絡調整費	1,229,706,000	△ 10,357,000	0	1,542,200	1,156,357,231	45,696,499	1,110,660,732	0	64,533,969		
	教育振興費	90,526,000	20,372,000	0	△ 1,542,200	89,445,657	27,651,658	61,793,999	0	19,910,143		
	教育財産管理費	641,000	0	0	0	459,592	0	459,592	0	181,408		
	合計	1,320,873,000	10,015,000	0	1,330,888,000	1,246,262,480	73,348,157	1,172,914,323	0	84,625,520		

特別会計  
該当なし

7 事業別実施状況調べ

(単位：円)

事業名	予 算 現 額					支出済額 (決算額) B	翌年度 繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	執行率 B/A	事業計画と実績・成果、 不用額の理由等																																																													
	当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰越額	予備費 支出及び 流用増減	計 A																																																																		
(教育連絡調整費) 教職員派遣 研修費	13,144,000	0	0	△ 2,147,000	10,997,000	5,697,178	0	5,299,822	52%	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、中央研修等の県外での研修は中止またはオンラインでの実施となったが、教職員の資質や指導力の向上を図るため、計画的な派遣により研鑽を積んだ。</p> <p>【不用額の理由】 新型コロナウイルス感染症の影響が年度末まで続き、県外研修等が中止またはオンライン開催となったため。 (高等学校教育企画費及び高等学校改革推進事業へ流用、特別支援教育充実事業から流用)</p>																																																													
	<table border="1"> <tr> <td>中央研修講座への派遣 各種研修会・講習会への派遣</td> <td colspan="9">新型コロナウイルス感染症の影響で基本的にオンラインでの実施となったが、指導主事及び現職教員を中央研修講座等に派遣することで、指導力の向上を図るとともに、各地区において中核となる人材の育成を図った。</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">内地留学・新教育大学大学院等への派遣</td> <td>区分</td> <td colspan="3">テーマ及び派遣先</td> <td>人数</td> <td>期間</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">内地留学</td> <td colspan="3">特別支援教育の充実 鳥取大学地域学部(2人) 島根大学大学院(1人)</td> <td>3人</td> <td>1年 2年</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td colspan="3">新教育大学大学院 兵庫教育大学大学院(2年目1人、1年目1人) 島根大学大学院(2年目1人)</td> <td>3人</td> <td>2年</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td colspan="2">大学の知と連携した授業改革による学びの質の向上</td> <td colspan="3">東京大学</td> <td>2人</td> <td>9日間</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>消費者教育推進に係る研修</td> <td colspan="9">成年年齢引き下げに伴い、高校生の消費者被害の防止・救済に係る教育の充実のため、講師を招聘して授業実践の取組を学び、各学校の取組についての意見交換を行った。また、令和3年度に県消費生活センター・県弁護士会と連携した全県立高校への出前授業を予定しており、令和2年度に県立高校の公民科教員2名・家庭科教員2名・県教育委員会事務局とで出前授業のための統一教材を作成した。</td> </tr> </table>										中央研修講座への派遣 各種研修会・講習会への派遣	新型コロナウイルス感染症の影響で基本的にオンラインでの実施となったが、指導主事及び現職教員を中央研修講座等に派遣することで、指導力の向上を図るとともに、各地区において中核となる人材の育成を図った。									内地留学・新教育大学大学院等への派遣	区分	テーマ及び派遣先			人数	期間					内地留学	特別支援教育の充実 鳥取大学地域学部(2人) 島根大学大学院(1人)			3人	1年 2年					新教育大学大学院 兵庫教育大学大学院(2年目1人、1年目1人) 島根大学大学院(2年目1人)			3人	2年					大学の知と連携した授業改革による学びの質の向上		東京大学			2人	9日間					消費者教育推進に係る研修	成年年齢引き下げに伴い、高校生の消費者被害の防止・救済に係る教育の充実のため、講師を招聘して授業実践の取組を学び、各学校の取組についての意見交換を行った。また、令和3年度に県消費生活センター・県弁護士会と連携した全県立高校への出前授業を予定しており、令和2年度に県立高校の公民科教員2名・家庭科教員2名・県教育委員会事務局とで出前授業のための統一教材を作成した。								
中央研修講座への派遣 各種研修会・講習会への派遣	新型コロナウイルス感染症の影響で基本的にオンラインでの実施となったが、指導主事及び現職教員を中央研修講座等に派遣することで、指導力の向上を図るとともに、各地区において中核となる人材の育成を図った。																																																																						
内地留学・新教育大学大学院等への派遣	区分	テーマ及び派遣先			人数	期間																																																																	
	内地留学	特別支援教育の充実 鳥取大学地域学部(2人) 島根大学大学院(1人)			3人	1年 2年																																																																	
		新教育大学大学院 兵庫教育大学大学院(2年目1人、1年目1人) 島根大学大学院(2年目1人)			3人	2年																																																																	
	大学の知と連携した授業改革による学びの質の向上		東京大学			2人	9日間																																																																
消費者教育推進に係る研修	成年年齢引き下げに伴い、高校生の消費者被害の防止・救済に係る教育の充実のため、講師を招聘して授業実践の取組を学び、各学校の取組についての意見交換を行った。また、令和3年度に県消費生活センター・県弁護士会と連携した全県立高校への出前授業を予定しており、令和2年度に県立高校の公民科教員2名・家庭科教員2名・県教育委員会事務局とで出前授業のための統一教材を作成した。																																																																						
県立高校裁量 予算学校 独自事業											<p>学校長が独自性を発揮した学校経営ができるよう、学校運営費、教職員旅費、学校独自事業の総額を一括して配分し、学校長裁量による予算執行を行った。 各学校の課題解決のための臨機な対応ができ、実施に当たっての費用対効果の検証、説明責任を果たすなど、学校の自主・自立に繋がっている。</p>																																																												
公立高等学校 就学支援 事業	1,147,915,000	△ 1,034,000	0	178,200	1,147,059,200	1,095,941,017	0	51,118,183	96%	<p>保護者等の道府県民税所得割及び市町村民税所得割の合算額が507,000円未満(令和2年7月以降は、保護者等の市町村民税の課税標準額×6%-市町村民税の調整控除額の合算額が304,200円未満)の世帯について、就学支援金及び学び直し支援金の支給を行った。</p> <p>【支給状況】 ・就学支援金 在籍者の約85.6%に支給 支給総額:1,091,251,752円 年度内の受給資格者数(実人数):9,668人 ・学び直し支援金 支給総額:384,300円 年度内の受給資格者数(実人数):6人</p> <p>【不用額の理由】 予算要求にあたり、前年度5月現在の認定者割合等を基に必要額を積算しているが、実際に入學し、認定となった生徒数が見込みよりも少なかったため。 (未来につなぐ高校生活支援事業から流用)</p>																																																													
高等学校改革 推進事業	7,111,000	△ 5,378,000	0	560,000	2,293,000	1,903,675	0	389,325	83%	<p>教育審議会において議題に沿った専門家の講演を受けた。 また、学校と地域が連携・協働しながら、新しい時代に求められている生徒の資質・能力を育むため保護者や地域住民等が教育課程など学校運営に直接意見できる学校運営協議会を県立高校7校に追加設置し、計8校となった。 (教職員派遣研修費、高等学校教育企画費から流用)</p>																																																													

事業名	予 算 現 額					支出済額 (決算額) B	翌年度 繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	執行率 B/A	事業計画と実績・成果、 不用額の理由等
	当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰越額	予備費 支出及び 流用増減	計 A					
(主)とっとり高校魅力 強化推進事業	31,335,000	△ 3,945,000	0	105,000	27,495,000	24,720,196	0	2,774,804	90%	主な事業に関する調べの とおり (高等学校教育企画費から 流用)
高等学校教育企画費	23,623,000	0	0	2,298,000	25,921,000	21,391,048	0	4,529,952	83%	県立高等学校に対して指 導・助言を行うとともに、 関係団体への助成等を行っ た。 (とっとり高校魅力強化推進 事業、高等学校改革推進事 業及び入学選抜諸費へ流 用、教職員派遣研修費及び 文化芸術活動支援事業から 流用)
入学選抜諸 費	6,578,000	0	0	548,000	7,126,000	6,704,117	0	421,883	94%	令和3年度県立高等学校入 学者等の選抜を実施した。  願書受付 (一般) R3.2.18~2.22 入学者選抜検査 (一般) R3.3.9~3.10 合格発表 R3.3.18 (高等学校教育企画費から 流用)
(単位:人)										
目 計	1,229,706,000	△ 10,357,000	0	1,542,200	1,220,891,200	1,156,357,231	0	64,533,969	95%	
(教育振興費)										
未来を拓く 学力向上事 業	5,013,000	△ 1,639,000	0	0	3,374,000	1,479,931	0	1,894,069	44%	学校の枠を超えた連携を深 め、教員同士が協働して教 科指導力を向上させ授業改 善を図るための取組や、切 磋琢磨しながら進路実現に 向けて果敢にチャレンジす る生徒を育成するための取 組を実施。 ・学校連携チャレンジサ ポート事業(4校5事業) 新型コロナウイルス感染症 の影響で、理数課題研究等 発表会と「科学の甲子園」 鳥取県大会は、規模及び内 容を縮小して実施。 ・理数課題研究等発表会 参加生徒数25人(R1:58人) ・「科学の甲子園」鳥取県 大会 参加生徒数56人(R1:79人) 【不用額の理由】 新型コロナウイルス感染症の流 行が年度末まで収まらず、 学校での取組が中止したり したため。
地域等と連 携した土曜 活用事業	3,297,000	△ 2,657,000	0	0	640,000	439,577	0	200,423	69%	土曜日において、生徒にこ れまで以上に豊かな教育環 境を提供し、その成長を支 えるため、土曜授業の実施 に取り組むとともに、土曜 日を活用して、学校と地域 が連携した多様な学習や体 験活動等の機会の実施に取 り組んだ。 【不用額の理由】 当初は10校11事業を実施予 定であったが、うち7校7事 業が新型コロナウイルス感 染症拡大により未実施と なったため。
未来を創造 する「思考 力・判断 力・表現 力」育成事 業	15,865,000	△ 3,069,000	0	0	12,796,000	10,121,837	0	2,674,163	79%	高大接続改革が進められ る中、高等学校教育におい て求められている「思考力・ 判断力・表現力(記述 力)」の強化を図るため、 各研究、各学問分野等に おける著名な研究者、実践 者等を招いて意見交流を行 う等の質の高い探究活動 を実施した。

事業名	予 算 現 額				支出済額 (決算額) B	翌年度 繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	執行率 B/A	事業計画と実績・成果、 不用額の理由等											
	当初予算額	補正予算額	繰越事業費 繰越額	予備費 支出及び 流用増減						計 A										
いつでも・ どこでも・ 学習継続支 援事業	0	36,884,000	0		36,884,000	34,307,170	0	2,576,830	93%	新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業時や分散登校時等において、全ての生徒の学びを保障するとともに当該感染症の第2波等に備え、オンラインの授業動画のeラーニング教材等、ICTを活用した家庭学習を支援した。										
ふるさと キャリア教 育充実事業	9,760,000	△ 1,396,000	0	△ 18,064	8,345,936	4,690,807	0	3,655,129	56%	各取組を進めるなかで、県内就職生徒の内定率は99.8%と高水準を維持し、卒業後1年以内の県内就職者の離職率は11.6%と低下している。 【不用額の理由】 新型コロナウイルスの影響に伴い、キャリア塾で10事業が未実施となった他、農業先進地農家派遣についても未実施となったため。 (未来につなぐ高校生活支援事業へ流用)										
											区分					実績				
											キャリア塾					41事業実施				
											キャリア教育推進協力企業					226社				
											鳥取県ヘルプメイト資格認定者					54名				
											介護職員初任者研修認定者					61名				
											職業教育技術顕彰					347名の生徒を表彰				
県内等修学 旅行支援事 業	0	7,000,000	0	1,268,000	8,268,000	6,413,916	0	1,854,084	78%	新型コロナウイルス感染症の感染リスクの少ない県内等での修学旅行等によって、生徒がふるさどについて学ぶ機会を創出し、地域への愛着を育んでいきたいという視点から実施。(8校) (文化芸術活動支援事業から流用)										
外部人材活 用事業	5,380,000	△ 628,000	0	0	4,752,000	4,278,955	0	473,045	90%	・県立高校・大学教員交流事業 高等学校の生徒が大学教員の最先端の講義を受けることにより、学ぶことへの意欲の高揚を図るとともに、将来の進路目標に向かって学習する態度の育成に努めた。 ・社会人講師活用事業 生徒の興味・関心に応じた多様な教育を展開し、専門的な知識・技術を有する社会人講師として招へいた。 県立高校21校										
											大学			実施校数		延べ教員数				
											鳥取大学			6校		17人				
											鳥取環境大学			4校		8人				
											鳥取看護大学			1校		1人				
											鳥取短期大学			2校		2人				
(主) ICT活用推進 事業	4,231,000	0	0	285,413	4,516,413	4,167,180	0	349,233	92%	主な事業に関する調べどおり (未来につなぐ高校生活支援事業から流用)										
定時制通信 制教育振興 費	778,000	0	0	0	778,000	531,373	0	246,627	68%	高等学校の定時制・通信制課程に在籍する一定の要件を満たす生徒に対し、教科書・学習書等の給付を実施したり、定通関係団体への助成等を行った。 【R2給付実績】 ○定時制：18人 133冊 112,061円 ○通信制：6人 72冊 78,776円 【不用額の理由】 定時制・通信制に在籍する生徒への教科書・学習書等の給付等が当初見込みを下回ったため。										

事業名	予 算 現 額				支出済額 (決算額) B	翌年度 繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	執行率 B/A	事業計画と実績・成果、 不用額の理由等																																		
	当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰越額	予備費 支出及び 流用増減						計 A																																	
特別支援教育充実事業	5,333,000	△ 1,405,000	0	△ 555,200	3,372,800	1,604,554	0	1,768,246	48%	自己理解・他者理解のための実践・研究では、県立高校において、特別支援学校や大学等より講師を招いて職員研修、講演会等を実施した。 「高校における通級による指導」の調査・研究では、4校を設置校に指定し、通級指導教室についての教職員研修や先進校視察を行った。 【不用額の理由】 実施予定であった職員研修や講演会等の一部について、新型コロナウイルス感染症の影響により中止等となったため。 (教職員派遣研修費へ流用、文化芸術活動支援事業から流用)																																	
文化芸術活動支援事業	30,543,000	△ 12,718,000	0	△ 2,076,800	15,748,200	12,199,393	0	3,548,807	77%	高等学校文化部に対して支援を行うことで、文化部活動を活性化し、文化芸術活動に対する機運を高めるとともに、近畿高等学校総合文化祭の成果を維持・継続すべく、日々の部活動の環境を整えた。 全国高等学校総合文化祭、及び近畿高等学校総合文化祭は、オンラインによる開催となった。  また、高校生「まんが王国とっとり」応援団の活動成果の維持・発展を目指し、平成27年度の近畿高等学校総合文化祭鳥取大会のまんが部門開催を契機に設置した「まんが専門部」の活動を支援した。 (高等学校教育企画費、特別支援教育充実事業及び県内修学旅行支援事業へ流用)																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化部活動地域専門指導者招へい事業</td> <td>文化部活動において、校外の社会人に指導を受けた。</td> </tr> <tr> <td>校外・合同練習会支援事業</td> <td>全国高等学校総合文化祭等に合同で出場する部門が、一堂に集まってホール練習等をした。</td> </tr> <tr> <td>備品整備事業</td> <td>フルート、ホルン、テナーサックス、パフォーマンス用特大筆等、文化部活動に必要な備品を整備した。</td> </tr> <tr> <td>県高等学校文化連盟への助成</td> <td>ア 全国高等学校総合文化祭(高知)派遣費補助 イ 近畿高等学校総合文化祭(奈良)派遣費補助 ウ 鳥取県高等学校総合文化祭開催費補助 ※ア、イはweb開催となった。</td> </tr> <tr> <td>文化部パワーアップ事業</td> <td>平成27年度に開催した「近畿高等学校総合文化祭鳥取大会」の成果を維持・継続し、文化部活動のレベルアップを図るため、県高等学校文化連盟に経費を補助した。 ・県外の優秀指導者による生徒への指導や合同練習会 ・全国水準の指導者研修への派遣</td> </tr> </tbody> </table>									区分	実績	文化部活動地域専門指導者招へい事業	文化部活動において、校外の社会人に指導を受けた。	校外・合同練習会支援事業	全国高等学校総合文化祭等に合同で出場する部門が、一堂に集まってホール練習等をした。	備品整備事業	フルート、ホルン、テナーサックス、パフォーマンス用特大筆等、文化部活動に必要な備品を整備した。	県高等学校文化連盟への助成	ア 全国高等学校総合文化祭(高知)派遣費補助 イ 近畿高等学校総合文化祭(奈良)派遣費補助 ウ 鳥取県高等学校総合文化祭開催費補助 ※ア、イはweb開催となった。	文化部パワーアップ事業	平成27年度に開催した「近畿高等学校総合文化祭鳥取大会」の成果を維持・継続し、文化部活動のレベルアップを図るため、県高等学校文化連盟に経費を補助した。 ・県外の優秀指導者による生徒への指導や合同練習会 ・全国水準の指導者研修への派遣																						
区分	実績																																										
文化部活動地域専門指導者招へい事業	文化部活動において、校外の社会人に指導を受けた。																																										
校外・合同練習会支援事業	全国高等学校総合文化祭等に合同で出場する部門が、一堂に集まってホール練習等をした。																																										
備品整備事業	フルート、ホルン、テナーサックス、パフォーマンス用特大筆等、文化部活動に必要な備品を整備した。																																										
県高等学校文化連盟への助成	ア 全国高等学校総合文化祭(高知)派遣費補助 イ 近畿高等学校総合文化祭(奈良)派遣費補助 ウ 鳥取県高等学校総合文化祭開催費補助 ※ア、イはweb開催となった。																																										
文化部パワーアップ事業	平成27年度に開催した「近畿高等学校総合文化祭鳥取大会」の成果を維持・継続し、文化部活動のレベルアップを図るため、県高等学校文化連盟に経費を補助した。 ・県外の優秀指導者による生徒への指導や合同練習会 ・全国水準の指導者研修への派遣																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プロによるまんが講習会</td> <td>令和2年10月24(土)、11月7日(土)、12月5日(土)「鳥取県」をテーマにグループでの作品制作 5校 38名が参加</td> </tr> <tr> <td>高校生まんが展</td> <td>令和2年12月23日(水)～27(日)米子コンベンションセンターにて 展示・作品鑑賞会等 4校</td> </tr> <tr> <td>まんが甲子園参加事業</td> <td>令和2年7月20(月)～29日(水)web上にて開催 まんが甲子園出品(生徒12名) ひのもとめぐる審査員賞受賞(1名)</td> </tr> <tr> <td>韓国高校生との交流</td> <td>令和2年11月4日(水)韓国アニ高校とのリモート交流 オンライン交流を通じた生徒作品鑑賞会(13名)</td> </tr> </tbody> </table>									区分	実績	プロによるまんが講習会	令和2年10月24(土)、11月7日(土)、12月5日(土)「鳥取県」をテーマにグループでの作品制作 5校 38名が参加	高校生まんが展	令和2年12月23日(水)～27(日)米子コンベンションセンターにて 展示・作品鑑賞会等 4校	まんが甲子園参加事業	令和2年7月20(月)～29日(水)web上にて開催 まんが甲子園出品(生徒12名) ひのもとめぐる審査員賞受賞(1名)	韓国高校生との交流	令和2年11月4日(水)韓国アニ高校とのリモート交流 オンライン交流を通じた生徒作品鑑賞会(13名)																								
区分	実績																																										
プロによるまんが講習会	令和2年10月24(土)、11月7日(土)、12月5日(土)「鳥取県」をテーマにグループでの作品制作 5校 38名が参加																																										
高校生まんが展	令和2年12月23日(水)～27(日)米子コンベンションセンターにて 展示・作品鑑賞会等 4校																																										
まんが甲子園参加事業	令和2年7月20(月)～29日(水)web上にて開催 まんが甲子園出品(生徒12名) ひのもとめぐる審査員賞受賞(1名)																																										
韓国高校生との交流	令和2年11月4日(水)韓国アニ高校とのリモート交流 オンライン交流を通じた生徒作品鑑賞会(13名)																																										
未来につなぐ 高校生活 支援事業	10,326,000	0	0	△ 445,549	9,880,451	9,210,964	0	669,487	93%	高校生等の学校生活を支援するための取組を実施した。  (公立高等学校就学支援事業及びICT活用推進事業へ流用、ふるさとキャリア教育充実事業から流用)																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th colspan="3">実績</th> <th>活動内容</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>実施期間</th> <th>参加人数</th> <th colspan="2"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とっとり夢プロジェクト事業</td> <td colspan="3">創造力とチャレンジ精神をもった高校生の主体的な企画・活動を支援した。 ・「The Global Streaming Musical "Flower by the way" as the Environmental Project」(鳥取西高校) ・「国指定史跡 鳥取藩主池田家墓所の亀跡に関する研究」(八頭高校) ・「TOTTORI/ハイヤ普及作戦～青バハイヤは鳥取農業の救世主になれるのか～」(倉吉農業高校)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>いじめ問題支援事業</td> <td colspan="3">全県立高校で心理検査hyper-QUを実施し、生徒及び生徒の所属する集団の状況を把握して、適切な支援策を講じる資料とした。 県立24校の1・2年生対象に各校2回実施(定時制は1～3年生) ・教員を対象に、心理検査hyper-QUの結果の分析や活用に関する研修実施。参加人数30人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高校生マナーアップ推進事業</td> <td colspan="3">高校生の社会の一員としての自覚を高め、規範意識の向上を図るため、挨拶運動を実施した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>第1回</td> <td>R2.4.14～4.17(中止) 代替措置 R2.6.15～6.16</td> <td>約60人</td> <td rowspan="2">①列車に乗車してのマナー指導</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第2回</td> <td>R2.9.8～9.11</td> <td>約70人</td> </tr> </tbody> </table>									区分	実績			活動内容	区分	実施期間	参加人数			とっとり夢プロジェクト事業	創造力とチャレンジ精神をもった高校生の主体的な企画・活動を支援した。 ・「The Global Streaming Musical "Flower by the way" as the Environmental Project」(鳥取西高校) ・「国指定史跡 鳥取藩主池田家墓所の亀跡に関する研究」(八頭高校) ・「TOTTORI/ハイヤ普及作戦～青バハイヤは鳥取農業の救世主になれるのか～」(倉吉農業高校)				いじめ問題支援事業	全県立高校で心理検査hyper-QUを実施し、生徒及び生徒の所属する集団の状況を把握して、適切な支援策を講じる資料とした。 県立24校の1・2年生対象に各校2回実施(定時制は1～3年生) ・教員を対象に、心理検査hyper-QUの結果の分析や活用に関する研修実施。参加人数30人				高校生マナーアップ推進事業	高校生の社会の一員としての自覚を高め、規範意識の向上を図るため、挨拶運動を実施した。					第1回	R2.4.14～4.17(中止) 代替措置 R2.6.15～6.16	約60人	①列車に乗車してのマナー指導		第2回	R2.9.8～9.11	約70人
区分	実績			活動内容																																							
区分	実施期間	参加人数																																									
とっとり夢プロジェクト事業	創造力とチャレンジ精神をもった高校生の主体的な企画・活動を支援した。 ・「The Global Streaming Musical "Flower by the way" as the Environmental Project」(鳥取西高校) ・「国指定史跡 鳥取藩主池田家墓所の亀跡に関する研究」(八頭高校) ・「TOTTORI/ハイヤ普及作戦～青バハイヤは鳥取農業の救世主になれるのか～」(倉吉農業高校)																																										
いじめ問題支援事業	全県立高校で心理検査hyper-QUを実施し、生徒及び生徒の所属する集団の状況を把握して、適切な支援策を講じる資料とした。 県立24校の1・2年生対象に各校2回実施(定時制は1～3年生) ・教員を対象に、心理検査hyper-QUの結果の分析や活用に関する研修実施。参加人数30人																																										
高校生マナーアップ推進事業	高校生の社会の一員としての自覚を高め、規範意識の向上を図るため、挨拶運動を実施した。																																										
	第1回	R2.4.14～4.17(中止) 代替措置 R2.6.15～6.16	約60人	①列車に乗車してのマナー指導																																							
	第2回	R2.9.8～9.11	約70人																																								
目 計	90,526,000	20,372,000	0	△ 1,542,200	109,355,800	89,445,657	0	19,910,143	82%																																		

事業名	予 算 現 額				計 A	支出済額 (決算額) B	翌年度 繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	執行率 B/A	事業計画と実績・成果、 不用額の理由等
	当初予算額	補正予算額	繰越事業費 繰越額	予備費 支出及び 流用増減						
(教育財産管理費) 倉吉農業高等学校演習 林活用事業	641,000	0	0	0	641,000	459,592	0	181,408	72%	・演習林の教育的活用で は、6月から11月までの演習 林実習において育林管理や 林内の希少植物の保護等を 環境科の生徒で実施。 ・演習林内で鳥獣害対策に ついて、森林内における被 害状況・仕掛けられたわな や捕獲免許の仕組みなどを 猟友会から学んだ。  ・近年の木材加工の技術、 建築技術（仕口と継手・海 外での建築工法・伝統工 法）について学んだ。 ・カラマツ立木の伐倒と玉 切り実習を行い、林業機械 の安全な取り扱いについて 学習できた。
目 計	641,000	0	0	0	641,000	459,592	0	181,408	72%	
合 計	1,320,873,000	10,015,000	0	0	1,330,888,000	1,246,262,480	0	84,625,520	94%	

8 予備費の充用調べ  
該当なし

9 繰越関係調べ  
(1) 継続費通次繰越調べ 該当なし  
(2) 繰越明許費調べ 該当なし  
(3) 事故繰越調べ 該当なし